
Gray Snow

雷禅 神衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Gray Snow

【Nコード】

N9078H

【作者名】

雷禅 神衣

【あらすじ】

もう一度、必ず会える。例え肉体は失おうとも……。

時も、風も、鼓動も、祈りも
その瞬間全てが止まった。

崩れ行く大地に響く、無数の断末魔は
光を闇に陥れる、確かな証だった。

大地は割れ、空には永久の闇が訪れる。

失った太陽の光は、もう二度とこの大地を照らす事はないだろう。
思いもよらぬ惨劇が、二人を引き裂いた……。

足の踏み場が無いほど、無造作に転がる死体。

肉は引き裂かれ、血肉が飛び散り、眼球は転がる。

地平線の彼方まで続く地獄絵図の中
たった一人、男が立ち上がった。

無音……耳を突く静けさ……孤独と恐怖……そしてわず
かな希望……。

激しく乱れる呼吸が、肺を苦しめる。

異臭塗れの身体で、男は死体を踏みつけながら歩く。

どこまでも……どこまでも……。

丘を越えると、大きな木が静かに佇んでいる。

長き季節を超え、木々を失った大木。

男は白く染まった吐息を吐き出し、背中をそつと大木に当てた。
目を閉じると、十字架のネックレスをした君が浮かぶ。

白いワンピースを着た君は、男にこう言った。

「あの木の下で会いましょう」と

今思えば君は、この惨劇を予期していたのだろうか。
こうなると分かっていて、約束を・・・？・・・

疲れ切った身体を沈めるように、男は膝を曲げ蹲る。
膝を抱え、この変わりきった世界を眺める。
美しいほど変化した人間の姿。

この世の地獄とも言える、死の世界。

再び目を閉じると、君が浮かぶ。

曇りの無い笑顔が男を眠りへと誘う。

「大丈夫、きつと来るさ・・・きつと・・・」

氷のように冷たい雪が、男に積もる・・・
まるで全ての悲しみを沈めるように。

「来るさ・・・きつと・・・必ず君に・・・逢う・・・ん・・・だ・・・」

「

膝を抱えていた手が力なく離れると

男が背にした大木の反対側で、十字架のネックレスをした女も
同じように力なく項垂れた・・・。

決して叶わなかった願い。

二人の距離を埋めるような、灰色の雪が降り出した・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9078h/>

Gray Snow

2010年10月11日18時43分発行